

聖書：ダニエル書 2：25～49

説教題：その国は永遠に立つ

日時：2014年11月23日

ネブカデネザル王の見た夢をダニエルがついに解き明かす場面です。このネブカデネザルの夢は、王にとって意味があるだけでなく、今日の私たちにも大いに関係する幻です。神はここにこの世界の歴史に関する鳥瞰図とでも言うべきものを示しておられます。

まずダニエルは王の前に行って、このことを私に示したのは天におられる神だ、と語ります。彼は自分が知者だという振りはしていません。注解者たちが指摘するのは、対照的なのは侍従長のアルヨクだということです。彼は「ユダからの捕虜の中に、王に解き明かしのできるひとりの男を見つけました。」と述べ、が彼を見つけた、私にこの功績がある！と言わんばかりのアピールをしている。しかしダニエルは神から栄光を奪い取りません。彼は「天に秘密をあらわすひとりの神がおられ、この方が終わりの日に起こることをネブカデネザル王に示されたのです。」と言います。30節でも「この秘密が私にあらわされたのは、ほかのどの人よりも私に知恵があるからではない」と語って、啓示の源である神を指し示し、神に栄光を帰します。

そうしてダニエルは王が要求した夢の中身を告げます。まず31～33節の部分を見て行きたいと思います。王が見た夢とは一つの巨大な像の夢でした。それは非常に輝く像であり、恐ろしいほどのものでした。その像は4つの部分からなっていました。まず頭は純金でできており、次に胸と両腕とは銀でできており、次に腹とももとは青銅で、そしてすねは鉄、その下の足は一部が鉄で一部が粘土でした。これは一体何でしょうか。36節以降のダニエルの解き明かしから分かることは、これは世界の歴史に次々に起こる国を指しているということです。

まず頭の金について、ダニエルは38節で、それはバビロンの王ネブカデネザルだと言っています。一番上にあって、一番輝きを放っている優れた部分はあなたである！と。ネブカデネザルはこれを聞いて悪い気はしなかったでしょう。喜ばしい内容だと受け取ったでしょう。しかし彼はこのことで自分を誇ってはなりません。なぜなら彼がそのような位置にあるのは、天の神がそうされたからです。真の主権者は神であられ、その神がこの光栄をあなたに賜ったとダニエルは言っています。

しかし39節には重大な言葉が出て来ます。それは「あなたの後に」という言葉で

す。これは何を意味するのでしょうか。それはバビロンの国が終わる時がやがて来る！ということです。今バビロンはこれ以上ないほど栄えています。ライバルの国々を打ち破り、世界を手中に収めています。しかしこの状態はいつまでも続くのではない。やがてもう一つの国が起こる。それは2番目の銀で現わされる国です。そしてさらにそれは第三の国に取って代わられる（青銅の国）。さらにそれは第四の鉄の国に取って代わられる。果たしてこの第二、第三、第四の国とはどんな国を指しているのでしょうか。これらについては、後にダニエル書7章8章に出て来ますので、そちらでもう少し詳しく考えたいと思います。ここでは第二の国、第三の国についてはさらっと書かれているだけで、その国はどこかということに関心は向けられていません。第一の国がバビロンであることと、第四の国のことが少し説明されているのみです。第四の国については鉄のように強い国だが、粘土と混じり合っているとされています。そのため一部が強く、一部はもろい。また43節にあるように、互いに混じり合うものの団結することはないとされています。

この幻はどんなメッセージを語っているのでしょうか。ダニエルの解き明かしから分かることは、この世の王国は次々に移り変わるということです。どんなにある国がある時、繁栄しても、それは一時的なものでしかない。やがてそれはしほみ、衰えて行く。それと共にここに示されているもう一つのことは、時代を経るごとにその質はどんどん落ちて行くということです。金から銀へ、銀から青銅へ、青銅から鉄へ。そして最後は鉄と粘土が混じっている状態。人々は人類の歴史はどんどん発展・進歩して行くという望みを持ちたいかもしれませんが、それとは反対のことが示されています。むしろ質は益々落ち、下降線をたどる。この像は全体で人間の歴史全体を意味しています、頭が金で足が鉄と粘土の混じったものというのはあまりにもバランスが悪いものです。下がしっかりしている方が安定するのに、下に行けば行くほど弱く、もろい。人間の歴史はそのように益々グラグラする方向に向かっている。

ネブカデネザルの見た夢には続きがありました。それは34～35節です。すなわち見ていると、一つの石が人手によらずに切り出され、一番下の鉄と粘土の部分を打って、これを打ち砕いた。その結果、上にあったものも共に砕けて、もみがらのようになり、風が吹いてあとかたもなくなった。そしてこの像を打った石は大きな山となって全土に満ちた。これについてダニエルは44～45節で、それは天の神が起こされる国であると述べます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、永遠に立ち続

けると。これは人手によらずに神が起こされた国ですから、神の国のことでしょう。人間世界の歴史を見るなら、先に見たようにそれはどんどん悪化の一途をたどります。一つの像の一番下が鉄と粘土の混じり合っている状態では、もうその先は見えています。しかしそれで世界の歴史が終わるのではない。その最後に、神による確かな国が立てられるのです。その国こそ、それまでの国とは違って、過ぎ去ることなく永遠に立ち続けるのです。

ネブカデネザルはこの解き明かしを聞いてひれ伏します。なぜ彼は自分の国がやがて他の国に取って代わられるという話を聞いたのに感謝したのでしょうか。おそらく彼は自分が金の頭だと聞いて安心したのでしょうか。そしていつまでもこの王国は続かないとしても、そういうことが起きるのは将来の話であって、自分の時代は少なくともその不幸を免れると考えたのでしょうか。ヒゼキヤがバビロン捕囚の預言を聞いた時、自分が生きている間はそれが起こらないと知って、ありがたいと述べたことと似ているかもしれません。ネブカデネザルはこの結果、ダニエルの神を神々の神、王たちの主と認め、ダニエルをバビロン全州を治める長官とします。またダニエルの願いが聞き入れられて、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴもバビロン州の事務をつかさどる者とされます。彼らはこうして捕囚の地栄えある働きを担う者へ導かれたのです。

以上のネブカデネザルに示された主の幻は、今日の私たちにはどんな意味を持っているのでしょうか。先に見たように、ここにはこの世の国々は必ず移ろい行くというメッセージが示されています。ある王国が隆盛を極めても必ずそれは過ぎ去って行く。どんなにある時、力強く、栄えているように見えても、それがしぼんで終わりになる時が来る。これはその王国のもとで苦しみの状態を強いられている者、虐げられている者にとって、大きな慰めをもたらす真理でしょう。その状態はいつまでも続くものではないのです。逆にこのことは、今の時代に乗っかって生きている人には警告を与えるものです。その人はこれこそわが時代、わが世と謳歌しているかもしれません。しかしこの幻は告げています。それはいつまでもは続かない。その後には別の国、別の時代が起こり、今の状態は過ぎ去る、と。

ですから問われることは、私たちはどの国のために生きるのかということでしょう。やがては過ぎ去る一時的な国のために生きるのか、それとも決して滅ぼされない永遠に続く国のために生きるのか。この世で、この世に合わせて、この世の基準で歩むことにだけ関心を注いでいるなら、今しばらくは良くても、結局それは無に

帰するものです。それは後に何も残らない生き方です。しかしやがて完成する永遠の国のために、永遠の国の基準で生きるなら、その生き方は時間と共に大なる称賛を受けるものとなる。それまでの間、神の約束に生きる私たちは、自分を情けなく感じる時があるかもしれません。この世の人たちから見れば余りにも小さく、みじめで、ほとんど無視できるような存在でしかない。しかしこのネブカデネザルの夢でも、神の国は最初、切り出された一つの石でしかなかった。しかしその一つの石で始まった神の国は、やがて大きな山となり、全土に満ちました。思い出すのはイエス様のからし種のたとえでしょう。からし種は地に蒔かれた種の中で一番小さいが、蒔かれると成長して、どんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになる。神の国はそのようなものであるとイエス様は言われました。ですから私たちは今、自分のしていることは小さいからと言って失望すべきではないのです。やがて神の国は全地を覆うのです。最終的に神の国が勝利する日を神は来たらせられるのです。そのことに目を上げるところから、私たちの毎日の生活が導かれて行くべきです。

このことはもちろん、将来のことばかりを見つめて、今ここでの生活を軽んじるということになってはいけません。ダニエルは将来のビジョンを王に示した後、王からバビロンの国での働きを与えられ、そのために仕えました。3人の同僚、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴもそうでした。ですから私たちは次の二つの誤りを避けなければなりません。一つは将来の神の国ばかりを待ち望んで、今ここでの責任を果たさない人間になることです。私たちは確かに天国の市民とされている者たちですが、にもかかわらずこの世から取り出されていないのは、この世でなすべきことが私たちに残されているからです。そしてもう一つ避けるべき誤りは、反対にこの世界における変革、この世の社会活動に熱心になるあまり、天を見上げる姿勢がおろそかになってしまうことです。正しいバランスが必要です。やがて実現する天の御国を待ち望みつつ、今ここでの働きをして行く。将来に対する確実な望みを持っているからこそ、ここでの困難な状況にも失望せず、自分のなすべき務めを忠実に果たして行く。そのことを行ないつつ、神が来たらせてくださる栄光の日に絶えず目を上げ、その約束に慰められ、励まされて歩むということです。

神はここに重大な、そして希望に満ちたメッセージを語ってくださいました。私たちはこの世で様々な王や国の下に置かれるでしょうが、主権を持っているのはそれらの王や国ではない。主権者は天の神です。その神が世界の歴史を支配し、つい

にご自身の手による永遠の国を立てられる。この啓示によらずして、一体誰が世界の歴史がこのように進むと知っているのでしょうか。人類の歴史の最終章はこのようにすでに書き記されているのです。そして神が切り出された一つの石であるイエス・キリストがすでに遣わされており、歴史の最終局面は始まっています。私たちは聖書が示すこの終末の光のもとで、今日の自分の生き方を考え、またその歩みを整えて行くことができるのです。私たちも神が示されたこの幻をいつも忘れないようにしたい。この世でどんな働きに従事している時も、あるいはどんな苦しみの下に置かれていても、あるいはどんな祝福の状態に置かれていても。なぜからこの夢こそやがて実現する正夢だからです。神は時至って神の国を完成させてくださり、待ち望む者たちをそこに導き入れてくださいます。その国こそ、過ぎ行くこの世の国とは違って永遠に立ち続ける祝福の国だからです。